

国語科『国語表現』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	2	単位数	3	授業形態	一斉
教科書 (出版社)	国語表現 (大修館書店)		副教材等 (出版社)	国語表現 基礎練習ノート (大修館書店) ビジュアルカラー国語便覧 (大修館書店) 書いて覚える漢字練習ノート二訂版 (啓隆社) 「論理の力」を育てるシリーズ 1日10分言語力ドリル「読む」(第一学習社)	
学習目標	<p>○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。</p> <p>○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。</p>				
学習方法	<p>○言葉による表現の仕方を学び、思いや考えを広げる・深める・伝える術を身につける。</p> <p>○クラスメートの表現から学べる部分を取り入れ、自身の表現を磨く。</p> <p>○授業時間毎・単元毎の目標を理解し、そこに到達するための見通しをもつ。</p> <p>○自分の理解度を客観的に評価し、予習や復習などを自主的に行う。</p>				
学習評価	評価の観点	評価の観点の趣旨			
	ア 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。			
	イ 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			
ウ 主体的に学習に取り組む態度	上記ア、イの力を身に付けるにあたり、粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。(全単元この主旨に沿って評価するため、下記「評価規準」の記載は省略)				
観点	評価方法	①	②	③	④
		発表・発言・様子	ワークシート	作品	単元考査・小テスト
ア 知識・技能		○	○	○	○
イ 思考・判断・表現		○	○	○	○
ウ 主体的に学習に取り組む態度		○	○	○	

学習計画（「単元」末尾の括弧内は指導領域と予定授業時数）

学期	編・章	単元	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法
				ア	イ	ウ		
前期 中間	1部 2 伝える、伝え合う	伝え方を工夫して自分自身をわかりやすく紹介しよう。【話す・聞く(2)】	レッスン① 自己紹介ゲーム	○	○	○	・自己紹介の場面に応じた表現や言葉遣いをしている。 ・自己紹介の目的に即して取り上げる話題を決め、伝える内容を検討している。	①
	1部 1 言葉と出会う	言葉遣いや表記の決まりについて理解を深め、整った文を書こう。【書く(6)】	レッスン① 言葉と表記 レッスン② 整った文を書く レッスン③ 相手に応じた言葉遣い	○	○	○	・表記の基本的なきまりや間違いや漢字・慣用句に注意して使うことができる。 ・係り受けや文末表現の統一について理解している。 ・伝えたいことが伝わるように、係り受けや文末表現に注意して文を書き直している。	①②④
	1部 5 メディアを駆使する	手紙の基本的な形式について理解を深め、思いが伝わる表現で手紙を書こう。【書く(6)】	レッスン① 通信文を書き分ける	○	○	○	・手紙の基本的な形式を理解し、それに即した表現を使っている。 ・自分の思いを明確にすることを心掛け、それを的確に表すことができるよう表現を工夫している。	①③④
	1部 5 メディアを駆使する	電話での話し方について理解を深め、場に応じた対応の仕方を身につけよう。【話す・聞く(3)】	レッスン② 電話を使いこなす	○	○	○	・電話での話し方と普段の話し方の違いや気を付けるべき点について理解している。 ・相手や場面に応じた言葉遣いで電話の応対をすることができる。	①

前期期末	1部 6 会話・議論・発表	職場体験の成果や感想をプレゼンしよう。【話す・聞く(8)】	レッスン④ プレゼンテーションの工夫		○	○	・思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開、資料の提示方法を工夫して発表に取り組んでいる。	①②
	1部 1 言葉と出会う	読みやすさを意識して文や文章を整えよう。【書く(5)】	レッスン④ わかりやすい文を書く レッスン⑤ 文のつなぎ方		○	○	・長い文や曖昧な文を避け、読点を適切に打つなど、表現の仕方を工夫している。 ・接続表現の効果や役割について理解を深め、文や文章の中で適切に使うことができる。 ・自分の思いや考えが伝わりやすいよう、接続表現を軸に文章全体を整えている。	①②④
	1部 3 小論文・レポート入門	小論文の基本的な書き方について理解を深め、論理的な文章を書こう。【書く(11)】	レッスン① 小論文とは何か レッスン② 反論を想定して書く		○	○	・読み手の同意が得られるよう、適切に根拠を取り入れて字数の少ない小論文を書くことができる。 ・前単元で学んだ小論文の構成を活かし、反証をしながら少ない字数の小論文を書くことができる。	①③④
後期中間	1部 6 会話・議論・発表	場に応じた話し方を心掛け、建設的な議論を目指そう。【話す・聞く(7)】	レッスン① 相手や場に応じた会話 レッスン② 建設的な議論の進め方		○	○	・多様な場面を想定し、その場に応じた適切な表現や言葉遣いをしている。 ・相手の反応に応じ言葉を使い分け、同意や共感が得られるように工夫している。 ・合意形成に向けて、論点を整理しながら主張や根拠について吟味し、話し合いを進めている。	①
	1部 3 小論文・レポート入門	小論文の書き方を踏まえ、発想を広げたりまとめた表現の仕方を身につけよう。【書く(6)】	レッスン⑤ 発想を広げて書く		○	○	・題材に応じて情報の組み合わせを工夫して説得力のある小論文を書いている。	①③
	1部 5 メディアを駆使する	電子メールの書き方について理解を深め、場に応じた表現の仕方を身につけよう。【書く(5)】	レッスン③ 電子メールを活用しよう		○	○	・電子メールの基本的な決まりごとについて理解し、それに応じた表現や言葉遣いを行うことができる。 ・電子メールの特性を理解した上で、相手に用件が伝わりやすいように表現を工夫している。	①③④
	1部 3 小論文・レポート入門	データや文章から読み取った情報や主張を活かしながら論理的な文章を書こう。【書く(14)】	レッスン③ 文章を読み取って書く レッスン④ 統計資料を読み取って書く		○	○	・課題文から読み取れたことを適切に取り入れつつ、自分の主張を書くことができている。 ・読み取ったデータを適切に取り入れつつ、自分の主張を書くことができている。	①③④
	2部	接続表現を効果的に用いて、わかりやすい説明書を書こう。【書く(3)】	3 日常生活の正しい過ごし方		○	○	・場面に応じた表現や言葉遣いについて理解を深め、使うことができている。 ・分かりやすい説明のために、接続表現を用いることができている。	①③④
	1部 4 自己PRと面接	志望理由や自己PRについて、わかりやすく具体的に、まとめよう①【話す・聞く(5)】 志望理由や自己PRについて、わかりやすく具体的に、まとめよう②【書く(7)】	レッスン① 自分を見つめて レッスン② 効果的な自己PR レッスン③ 将来の自分を考えよう レッスン④ 志望理由を書こう		○	○	・自分自身を見つめ直すことで、多彩な表現するための語彙を増やしている。 ・他者と意見を交流してお互いの長所を伝え合っている。 ・自分の思いが伝わるよう、エピソードを効果的に配置し、自己PRを行うことができている。 ・自分の進路のために必要な情報を集め、それらを適切に配置しながら「将来の自分」について文章にまとめることができている。 ・志望先について情報を集め、それらを活かしながら志望理由を書くことができている。	①②④
読書の広場	場に応じた話し方や説得力のある考え方を意識して、面接に挑戦しよう。【話す・聞く(6)】	レッスン⑥ 面接にチャレンジ		○	○	・面接の場に応じた適切な表現や言葉遣いを行うことができる。 ・相手の反応を踏まえて言葉を選んだり具体例を適切に配置しながら、自分の思いを届けることができている。	①	
2部	朗読の仕方や話の構成を工夫し、作品の魅力を届けよう。【話す・聞く(5)】	10 エッセイを書こう		○	○	・自らの言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ・自分のお気に入りの本の魅力が伝わるよう、聞き手を意識して発表を行うことができる。	①②	
2部	優れた作品に学び、エッセイを書こう。【書く(6)】	10 エッセイを書こう		○	○	・読み手の共感が得られるよう、事象を的確に描写したり、具体例を効果的に配置するなどして文章を工夫している。	①③	

指導領域毎の時数

指導領域	話すこと・聞くこと	書くこと	
授業時数の計	36時間	69時間	計105時間

※標準単位数は4であるが、本校で設定している単位数3に換算して時数を定めている。